

別紙標準様式(第7条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和3年度 第2回 枚方市中学校給食あり方懇話会
開 催 日 時	令和3年12月27日(月) 15時00分から17時00分まで
開 催 場 所	輝きプラザきらら(教育委員会室)
出 席 者	春木委員、今城委員、中山委員、金子委員、小西委員、山本委員
欠 席 者	田邊委員、田中委員、武田委員
案 件 名	1. 第1回会議のふり返りについて 2. 中学生の時期に必要な食事とは 3. 実態からみる枚方市の中学校給食 4. 学校給食の提供方式について 5. 中学校給食の望ましい方向性について 6. その他
提出された資料等の名称	資 料 1 第1回中学校給食あり方懇話会会議録 資 料 2 中学生の時期に必要な食事 資 料 3 実態からみる枚方市の中学校給食 資 料 4 枚方市の学校給食の提供方法 資 料 5 中学校給食提供方法による比較検討
決 定 事 項 等	主な意見内容 ・給食は成長期の中学生に栄養・健康・食育に関して大切で必要。 ・学校給食は残菜・調理時間などの面から食缶方式が望ましい。 ・学校教育・食育を進めていくために全員給食が求められている。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録等の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	なし
所 管 部 署 (事 務 局)	総合教育部 おいしい給食課

協 議 内 容

開 会

事 務 局： 定刻となりましたので、ただいまから第2回枚方市中学校給食あり方懇話会を始めさせていただきます。皆様方におかれましては年末のお忙しい中、本会議へのご出席、誠にありがとうございます。

前回、第1回の会議を開催し、様々なお立場からのご意見をお聞かせいただきました。本日も、お手元にお配りしております次第に基づき進めてまいりながら、皆様から、引き続き、枚方市の中学校給食のあり方について、ご意見をいただきたいと存じます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それではまず、資料のご確認をお願いいたします。

《資料確認》

事 務 局： 過不足等ございませんでしょうか。

では、本日の会議の進行でございますが、前回に引き続き、今城先生にお願いいたします。春木先生におかれましては、本市の食育推進計画の策定に多大なお力添えをいただいております。そうしたことから、食育推進に関する先進的なご意見、本市の中学校給食についての総合的且つ大局的なご意見・ご見解をいただきたいと考えておりますので、春木先生、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、今城先生、会議の進行をよろしくお願ひいたします。

今 城 委 員： よろしくお願ひいたします。

では、まず、事務局より委員の出席状況及び傍聴希望者の報告をお願いします。

事 務 局： 委員の出席状況ですが、本日の出席者は6名でございます。田邊委員、田中委員、武田委員は欠席との連絡がありましたのでご報告いたします。

また、本日の傍聴希望者はございません。以上です。

今 城 委 員： ありがとうございます。

では、本日の案件に入ります。案件1「第1回会議の振り返りについて」、事務局から説明をお願いいたします。

案件 1 第 1 回会議の振り返りについて

事 務 局： 案件1.「第1回会議の振り返りについて」、ご説明申し上げます。資料1「会議録」をご覧ください。

この会議録は、委員の皆様にご確認いただいたのち確定したもので、現在枚方市のホームページにも掲載しています。

まず、1 ページ目の案件名の部分をご覧ください。第1 回目の会議は、1 から6 までの案件について、事務局よりご説明させていただきました。

それでは、この会議録に基づき、それぞれの案件を簡単に振り返りながら、その際に委員の皆様いただいたご意見も併せてご説明させていただきます。

まず、会議録の4 ページをご覧ください。この4 ページ～10 ページに記載している「案件3」では、枚方市の学校給食開始から現在に至るまでの経緯についてや、スライドにおいて、現在の枚方市の中学校及び小学校の給食についてご説明させていただいた内容です。

戦後、食糧難の時代に、脱脂粉乳のミルク給食から開始した学校給食。今は全国的に、子どもたちの肥満・痩身傾向や食生活の乱れなどが課題となる中、平成17 年に食育基本法が策定され、家庭や地域だけではなく、学校も含め、食育の推進に取り組んでいくことが求められています。枚方市においても、食育において生きた教材となる「地場産物の活用」、「米飯給食の拡大」や、子どもたち自身が、食事の栄養バランスや彩り、美味しさなどを考えて給食のメニューを考案する「枚方市学校給食コンテスト」など、様々な取り組みを行う中で、食と健康に関心を持ち、食育へつなげられるような活動への工夫にも取り組んでいることについてご説明いたしました。

また、提供方法の説明では、小学校は食缶方式の全員給食、中学校はランチボックス方式の選択制の給食を実施しており、食材の選定方法や、それぞれにおける献立の作成方法、そして給食費、食物アレルギー対応方法などについてご紹介しました。また、中学校給食での予約システムにおいて、今年度、給食費の口座振替やWeb 申請の導入し、個々に応じた食事量の調整が難しいという課題に応え、ご飯量を標準・小盛、大盛から選べるようにするなどの対改善を行ったことも説明しました。

次に、会議録10 から13 ページの「案件4」では、枚方市の学校給食に関するアンケート調査について、これまで実施したアンケート調査の結果をご報告させていただきました。

枚方市の中学校給食が開始される前、開始された後のアンケートなど様々ございましたが、それらの結果をかいつまんで説明させていただきますと、「健康や体力づくりのことを考えると、栄養価が配慮されている給食がよい」と考えているものの、「好き嫌いがあるから弁当がよい」という意見があること、また、先ほどもお伝えしましたが、現在の中学校給食では、ご飯は量を選択できるように改善を行っておりますが、当時のアンケートでは、ランチボックス方式の給食について、「量が多くて食べきれない」や逆に「量が少なくて物足りない」というご意見がありました。

また、無作為3,000 人抽出の市民アンケートにおいては、「中学校給食は全員給食が望ましい」という意見が60%程度、中学生以下の子どもがいる市民では70%程度の回答があり、「全員給食の方が友達との関係性もうまくいく」や「弁当を作

ってもらえない子も昼食を食べることができる」という意見があったのに対し、選択制の給食がよいとする「必要に応じて、給食と弁当を選択できる方が望ましい」という意見もありました。

いずれのアンケート結果から見ましても、全員給食、選択制給食に関わらず、学校給食は、栄養バランスや、食の安全性においては高い評価を受けていることが分かるものとなっていることを説明させていただきました。

次に、会議録 16 から 17 ページの「案件 5」では、大阪府内の中学校給食の状況についてご説明させていただきました。

現在、大阪府内の 43 市町村のうち 32 市町村で中学校給食の全員給食を実施しており、選択制の給食は 43 市町村のうち 11 市であり、本市を含む北河内地域では、全員給食は 7 市のうち 5 市が実施、選択制は枚方市と守口市の 2 市となっていることなどを説明いたしました。

これらの説明ののち、いただいた委員の皆様からのご意見を、会議録の 14 ページから 16 ページに掲載しております。中学校での昼食の現状について、給食・弁当に関わらず、野菜を残している生徒が多くみられること、給食や弁当ではない生徒は菓子パンのみで済ませている場合が多いというご報告がありました。また、その残食が多いという現状の話に対して、現在の中学校給食はランチボックスという形式で、お弁当箱と同様食べ残しを隠せるのも原因の一つではないかというご意見もありました。一方、小学校でも全体的に見ると、野菜の残食が多いのですが、先生が声掛けを行ったり、給食の時間などに給食や給食に関わる方についての話を投げかけることで、意識の改善や食事に対する行動変容が見られるというご報告もいただきました。また、給食が栄養や食育に大きく影響していることを前提としたうえで、アンケートの結果から、現在の中学校給食を食べている生徒などについては、給食満足度が高いという結果が出ており、ほぼ、現状で良いということで問題ないのではないかというご意見もありました。

その他としては、子どもたちが、バラバラな内容の昼食状況であるというのは、心配な部分もあるというご意見や、中学生にもなると、食事内容について親が分からない状況の中で、昼食を食べていない子どももいるということを知ると、できる限り早く中学校の全員給食が叶えばという保護者からの求めは多いというご報告もありました。また、どの位のエネルギーやどんな栄養素が摂れるかをすべて把握して、普段の食事を食べている方はほとんどいないと思われる中で、給食はそれを考えて提供されている素晴らしいものなので、中学校給食についても、今後の子どもたちの成長につながるようにしてもらいたいというご意見もありました。

以上、前回の会議の内容やご意見を振り返らせていただきましたが、前回の内容も踏まえ、この後に続きます案件におきましても、多くのご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

振り返りについては、以上です。

今 城 委 員： ありがとうございます。

今、事務局から説明がありましたように、前回会議での枚方市の学校給食の現状や委員の皆様からのご意見などを踏まえた上で、以降の案件について、ご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いいいたします。

それでは、続きまして案件2「中学生の時期に必要な食事とは」を事務局からお願いいいたします。

案件2 中学生の時期に必要な食事について

事 務 局： 中学生の時期に必要な食事について説明いたします。

資料2をご覧ください。

成長期にある生徒にとって、健全な食生活は、健康な心身を育むために欠かせないものです。しかし、近年、食生活を取り巻く社会環境の変化などに伴い、偏った栄養摂取や不規則な食事など、児童生徒の食生活における課題が挙げられています。

まず、①「生徒の食生活における課題」についてご説明いたします。ここにグラフが2ページにわたってありますが、これらのグラフは前回の会議の際に、今城委員から中学生が不足している栄養素や過剰な栄養素があることについて、口頭でご意見があった研究データを厚生労働省のホームページから抜粋したものです。

厚生労働省は、健康の保持・増進を図る上で重要な栄養素について、各年齢の摂取量の目標を設定しています。

このグラフは、その摂取目標に対して、適切な摂取ができていない児童・生徒の割合を示しています。従いまして、棒グラフが高いほど、各栄養素に関する食生活の改善が必要ということになります。

青色は小学3年生、赤色は小学5年生、緑色は中学2年生の結果です。緑色の中学2年生の結果に注目してください。特にオレンジ色の点線で囲んだ栄養素は、摂取が不足している栄養素です。男子、女子で少し傾向は異なりますが、いずれにおいても食物繊維やカルシウム、鉄の摂取が不足していることがわかります。加えて男子生徒においては、ビタミン類の摂取が適切ではありません。一方、青色の点線で囲んだ脂質と食塩については、過剰に摂取している栄養素です。

これらの結果から、中学生においては、生活習慣病の発症に関連する栄養素の摂取に注意が必要であることが分かります。そのために、1日3食しっかり食べる、主食、主菜、副菜をそろえた食事をするなど成長に合わせた食習慣を身につけることが大切だということが分かります。

次のページの②をご覧ください。このグラフは同じ調査の中で、学校給食の有

る無しによる栄養素摂取状況を示したものです。グラフの見方は、先のグラフと同様、厚生労働省が設定している摂取目標に対して、適切な摂取ができていない児童・生徒の割合を示しており、棒グラフが高いほど、各栄養素に関する食生活の改善が必要と考えられます。学校給食がある1日の栄養摂取状況の平均を青色、給食がない日の1日の摂取状況の平均を赤色で示しています。「学校給食のある1日」と「学校給食のない1日」とで、摂取状況が大きく異なる栄養素を、オレンジ色の点線で囲んでいます。学校給食のない1日（赤色棒グラフ）の、カリウム、ビタミン類、カルシウムの摂取が大きく不足していることが分かります。特に骨の形成のため、中学生の時期に必要なカルシウムは給食の有無しで摂取状況が大きく異なることは注目する点です。このことから、学校給食が児童生徒の栄養改善に重要な役割を果たしていると考えられます。

次のページをご覧ください。③「学校給食に期待されること」について説明いたします。学校給食においては、学校給食摂取基準に基づいた望ましい栄養量の摂取を考えた献立作成を行っています。この学校給食摂取基準は、先ほど説明した調査結果から、給食がない1日で不足がみられた栄養素にも配慮したものです。通常、給食は1日3食のうちの1食ですから、1日に必要な栄養摂取量の1/3を給食で摂取することが基本とされています。しかし、先ほどの学校給食の有無しで摂取状況が大きく異なった「カルシウム」については、1日に必要な摂取量の1/2つまり50%を給食で摂るように目標量が定められています。その他、不足しがちなビタミン類においても1日に必要な摂取量の40%を給食で摂るよう目標量が定められています。この定められた栄養素の摂取基準に基づいて、栄養士が学校給食の献立を作成しています

また、学校給食では、望ましい栄養量の摂取だけでなく、(2)から(6)に示しているように、多様な食品を適切に組み合わせて様々な食に触れることができるようにしたり、学校で行われる食に関する指導を効果的に進めるための重要な教材として使用したり、望ましい食習慣と食に関する実践力を身につけること、学校給食を通して家庭への情報発信を行うことにより、児童生徒の食生活全体の改善を促すことなどが期待されています。

説明は以上です。

今 城 委 員： ありがとうございます。

案件2について、皆様から何かご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

事 務 局： 本日、会議に欠席の武田委員と田邊委員からこの案件内容についてご意見をいただいておりますので、この場でご報告させていただきます。

まず、武田委員からは、「小学生や中学生は、成長が目に見えて実感できる時期です。体にとって良いものを食べるから将来の健康によいとか、偏った食生活をしたら成長によくない等という実感がないのだと思います。子どもたちに栄養の情報

を一度に発信するのではなく、一つの栄養素のテーマを決めて情報発信し、月単位でテーマを変えていくと、知識が入りやすいのではないかと感じます。また、今回の資料にあるグラフからは、成長期に適切な栄養素摂取ができていない栄養についてアプローチできているのが給食であることがよく分かりました。」というご意見がありました。

次に田邊委員からは、「弁当は残さず食べてほしいという親の思いもあり、野菜は少しだけにして、食べてもらえる食材を入れる家庭が多いと思います。今回の資料のグラフや学校給食摂取基準の考え方を伺うと、学校給食はやはり全然違うのだと感じました。」というご意見がありました。

報告は以上です。

今城委員： ありがとうございます。

では、春木先生、学校給食における食育について何かご意見をいただけますでしょうか。

春木委員： 枚方市は今まで色々とアンケート調査をされるなど、大変熱心に学校給食に取り組んでおられ、かなり細やかに改善をされてきていることを、この会議に参加させていただいて感じているところです。

そのような中、成長期の子どもたちの栄養状況に課題があることについて、我々も含めて、栄養に携わっている者としては、今後日本人がどのようになっていくのか、大変心配しているところです。日本は北から南、東から西と物流が盛んで、比較的安価であるため、豊かな食生活をしようと思ったら栄養価の高い新鮮なものをすぐに手に入れることができる環境にあります。特に成長期の子どもを持つお母さんたちが、出来合いのものやレンジで温めてできる食品に囲まれた環境に置かれていることで、クッキングレスの家庭が増えています。これが今、大きな課題であると思います。そのような蓄積によって、今後の日本の食はどのようになっていくのかという点で、専門家の方々も頭を悩ませているのが現状です。ですので、枚方市においても、どう展開していくのかがこれから非常に重要になってくると思います。今、現状把握も含め取り組まれている中で、今後、子どもたちに望ましい給食提供を実践していくために、実際に現場に携わる先生方の協力なしには進めていけないので、食育の重要性への理解と協力をお願いしながら、実現する形で進めていけたらと思います。

今城委員： ありがとうございます。

その他、ご意見ございませんでしょうか。

先程、春木先生もおっしゃられていた枚方市が実施してこられたこれまでのアンケートデータのことや、現在の豊かな食生活にある中でのクッキングレス、今

後の日本の食文化の行方についてや食教育の見解についてもご意見をいただいたところがございます。そう意味においては、学校給食の意義は大変大きいかと思えます。

学校給食が果たす役割は、栄養面の充実はもちろんですが、日常の食生活や食習慣においても重要であると感じています。例えば、事務局の話にもありましたように、給食を盛り付ける食器についても、その献立に即した食器を使うだけではなく、バランスの良い食事の考え方の一つである主食・主菜・副菜などの捉え方の学習にもつながります。以前の給食はアルマイトの食器を使用していましたが、熱くてとても持てませんでした。今はポリプロピレンの食器が一般的ですが、それを使用することによって、器を持って食べるという日本の食文化である基本的なマナーを学ぶことにもつながってくると思います。また、箸使いについては、小学校では鉛筆の持ち方にもつながると言われていますが、いずれにおきましても、給食は他の教科とは違い、日々、実践を繰り返すことができる時間であり、習慣化を図るという意味でも、意義が深いのではないかと思います。

家では準備された食事を食べて、ごちそうさまで終わるのが大半かと思いますが、児童生徒が当番活動の中で、「当番の人にだけ任せておいたらいいわ」ではなく、当番ではない人も協力して給食の準備をすることで、「ごちそうさま」という言葉だけではなく、「食べ残さないこと」、「残さず食べようという気持ち」につながっていくと私は思います。この気持ちの変容というのは、これからの社会性を身に着けることや将来の家庭生活においても基礎となるものであり、この給食活動を通じて培われていくことを考えますと、学校給食の栄養面以外の大切さが見えてくるのではないかと思います。

では、続いて、案件3「実態からみる枚方市の中学校給食」について、事務局から説明をお願いします。

案件3 実態からみる枚方市の中学校給食

事務局： 実態からみる枚方市の中学校給食についてご説明します。資料3をご覧ください。まず、枚方市の中学校給食献立についてです。第1回の懇話会でもご説明いたしましたが、給食献立は、中学校に在籍する栄養教諭が献立を作成しています。

先ほど「学校給食に期待されること」で説明いたしましたように、枚方市の中学校給食においても、望ましい栄養量の摂取だけでなく、様々な食品を組み合わせることで多くの食材に触れるよう配慮しています。また、季節の食材を大切に、郷土料理や行事食等を取り入れて献立を作成しています。

献立に使用する食品や献立のねらいを明確にするため、月毎にテーマを設けています。資料に示していますのは、今年10月の献立テーマです。

行事食として、18日は、枚方の秋祭りが多く催されるということで、枚方の郷土料理である「ごんぼ汁、じゃこ豆、くるみ餅」を取り入れました。その他、今年度は日本各地の郷土料理を給食献立に取り入れています。10月は中国・四国地方の料理です。広島県などでよく食べられている「水軍鍋」は、タコの入った鍋料理です。また、徳島県の郷土料理である「ならえ」は、季節の野菜を三杯酢とすりごまで味付けした和え物です。また、季節の食材として、さつまいも、里芋、れんこん、さんま等も取り入れ、学校給食が食に関する指導を効果的に進めるための重要な教材となるよう検討しています。

裏面をご覧ください。全国学校給食甲子園は、全国の学校給食で提供されている献立を競う大会で、食育を啓発しながら地産地消の奨励を目的としており、今年度で16回目の開催です。枚方市の中学校給食も本大会に応募し、二次審査を通過し、大阪府代表に選ばれました。大阪の郷土料理である船場汁を取り入れ、枚方産の大根、青ねぎ、小松菜や大阪産の米、玄米、豆苗を使用しました。教育委員会のブログでも紹介させていただきました。

続きまして、中学校給食の残食についてです。表には、中学校給食の残菜率と小学校給食の残菜率を示しています。中学校給食については、ランチボックスに盛りつけられているため、料理別の残菜量は計量していません。中学校給食では、10%から30%の残菜率です。小学校給食では、年度平均で5%以下の残菜率です。料理別で見ても、2%から10%弱の残菜率です。中学校給食では好きなものだけ食べて、後はランチボックスの蓋をして返してしまう生徒も見られるという報告があります。この残菜率には様々な要因があると考えられますが、蓋をして見えなくなることで、残しやすい状況を作っていることもひとつの要因ではないかと考えられます。

次に、食育アンケートの結果についてです。この結果は、栄養教諭が在籍する中学校のアンケート結果の中で、学校給食についての項目について紹介したものです。学校給食の良いところとして、「栄養バランスに優れている」と回答した生徒は多くいるものの、「旬の食材を使っている」や「生活習慣病の改善、つまり生涯の健康につながる」、また「食文化・行事食が提供され学びに繋がる」などの認識が低いことがわかります。栄養バランスだけではなく、望ましい食習慣の形成や食文化や行事食などを取り入れた給食の良さが上手く伝えられていないと考えられます。

以上で、説明を終わります。

今 城 委 員： 事務局より「実態からみる枚方市の中学校給食」について説明がありましたが何かご意見、ご質問等はございますでしょうか。

小 西 委 員： 配付資料の職員用の「食育だより」は生徒たちへのアンケート結果などを掲載しています。これは5月に1回目のアンケートを実施して、同様のものを年度末

に実施することで、どのような改善がみられるかを比較し、給食だけでなく、今の子どもたちの実態を把握した上で私が昼食時に話をしています。また、職員用として配付することで、先生たちにも認知していただいて包括的に食育を進めるということを目的としています。これを活用した食育を本校では実施しておりますが、その中でも子どもたちがしんどいなあというところがいっぱいあります。例えば、アンケートの「欠食（朝食）に関する項目」では、その内容を把握してみると、結局土日の朝ごはんを昼食と兼用で食べていて欠食になっているとか、先ほどデータでも1日3食しっかり食べることが今後の摂取目標に近づくよと言ってるのにもかかわらず、なかなか生活リズムが取れないということが分かってきたりします。私たち栄養教諭が目的を持って献立にテーマを設けたり、行事食を知ってほしいとか、こんな食材があるんだよ、こんな調理法があるんだよという想いを詰めて給食に盛り込んでも、全員給食ではないことで、子どもたちの食の知識が定着していかないというのはさみしく感じるのが現状です。選択式ではなく、全員給食であれば、もっと発信したことが共有でき、この枚方市全体の食に関する知識が向上したり、子どもたちの成長にもつながったりするのではないかと考えています。以上です。

今 城 委 員： 小西委員、貴重なご意見ありがとうございます。小西委員が生徒たちの食育充実のために邁進されてるご様子や、日々のご苦勞を痛感したところです。私も中学生は将来の食習慣の形成に大きな影響を及ぼす時期であるとともにいろいろな生活環境の変化の中で食生活の自立に向けた重要な時期であると位置付けてよいのではないかと考えています。事務局から示されたデータや小西委員の資料にもありますように、農林水産省が第4次食育推進計画における食育の邁進に当たっての目標に、地域の伝統的な食文化が失われていくことへの危惧や、朝食を欠食する子どもの割合、平成元年が4.6%だったんですがこれを目指そう0%を目標に挙げています。私が一番気になったのは朝食を食べていない生徒がいるというところを注目しました。「食欲がない」もそうなんですけど起床時間との関係もあるのかなとも思います。さらに気になるところは、データにはなかったんですが排便です。起床、それから朝食、排便という食生活のリズムというのは大変関係が深いと思っています。4年前に、ある小学校の生活実態調査をしたところ、毎日排便をするという児童が半数以下という結果が出ました。色々な因果関係があると思うのですが、そのような児童が給食を食べてトイレに駆け込む、というような状況もあると伺っています。生活リズムを作る上でも朝食は大変重要だと思っています。また、朝食を食べず、昼と夜の2食で1日に必要な摂取量を摂取するのは大変厳しい状況ではないかとも思います。朝食と脳の働きについては、脳の栄養の欠乏状態も気になります。体の基礎ができる大切な時期であるにもかかわらず、食べることや食べ物についての興味・関心の希薄、食べる意欲などがデータにも表れています。資料の職員用食育だよりにありますように、「歯や口に

関する項目」、「自己認識・知識に関する項目」のデータからも日々の栄養教諭の食育活動の中で学んだ知識は、行動変容につながっていくと思います。例えば、しっかり噛んで食べるとか、食材や手法を考えながら料理をして食べることができるとことは食の自立につながっていくと思います。こういうことをさらに深め効果を上げるには、小西委員もおっしゃったように給食を教材として全生徒が学習することが私は望ましいのではないかと思います。あと小中学校の連携を図った系統立てた食育計画を、どの学校にも学校全体で取り組めるような指導体制が必要ではないかと思います。このように、効率性や有効性を考えたうえで、給食の時間に全員で学んで、その学んだことが成人になった際に生きていくような、意図的に位置付けた知識の定着が本当に必要であると思いました。

小西委員や事務局からの報告で、給食の状況の報告がありましたが、それらの内容についてご意見を伺いたいと思います。もし、改善策やこうしたらどうですかというようなご意見も併せてお伺いできたらと思います。小学校の栄養教諭の山本委員、いかがでしょうか。

山本委員： 小学校の給食においても中学校と同じように、枚方市の行事食であるごんぼ汁、ごまめ、くるみ餅を毎年献立に入れてあります。小学校は全員喫食ですので、全校にPRする機会がたくさんあります。学校・職員に対しても、お便りやその日の給食を私が給食当番に説明することで児童に伝わっていくことになっていますので、小学校の中では枚方の郷土料理はこれということは、ある程度認知されていると感じています。食育に関しては全員喫食ですので日々の給食を取り入れて説明すること、「今日の食材の青葱は枚方産だよ」と言うと、小学校3年生ですと「地産地消だ」と社会で習ったことを返してくれますし、そのレスポンスが早く感じられます。枚方市はセンター（共同調理場）と単独調理場があり、その学校間の差はあるとは思いますが、実際、給食当番が給食の食器を返却する際に、調理員の方に「おいしかったよ」「今日のこれはとても良かった」「明日もよろしくね」という声掛けがほぼあります。そういった関係性を持つと、作り手が見えてくるので残食も減る傾向にあるかなと感じています。

今城委員： ありがとうございます。では中学校部会長の中山委員、お願いします。

中山委員： うちの中学校の給食を息子に聞いた時、うちの息子は私が作ったお弁当でもすごい残すんです。背がすごい高くて細い子で、家では時間をかけてゆっくり食べるのですが、学校では時間が限られているので、一旦家に帰って部活へ行くときなど、時間がないと食事を残してしまう。あとコロナ禍で昼食時は、前を向いて食べるためか、お弁当のご飯が半分以上残っていることがあります。食缶の給食であれば、量を調整して盛り付けられると思うのですが、お弁当であっても

給食であっても今は調整ができないので、残していることに対して、「なんで、先生に注意されないの？」と聞くと、「みんなから弁当や給食が見えないからばれへんねん」って言うんです。「そういう問題じゃないよ」と言っても、前を向いて一人で囲って食べる給食やお弁当は、蓋をして残しても分からないし、注意もされないの、お弁当の時は家に帰ってこっそり捨ててしまう時もありました。この時期にはよくあることなのかなとは思いますが、中学校の給食の時間が少ないというのを毎回言い訳にしている、「小学校の時の給食より時間がない」と言うので、学校によって違うのかと、PTAで話し合ったこともあります。その辺はまだ確認できていません。給食が全員喫食になったら、昼食の時間について考えてもらえるのかなという話し合いをPTAではしています。

今城委員： ありがとうございます。時間があったら食べられますよね。

中山委員： そうですね。

移動教室から戻ってきてすぐに給食が始まるのか分からないのですが、小学校のように給食の時間が取られていないのかと中学校の時間割と昼食時間を比べてみると、時と場合によると思うんですが、ゆっくり食べる時間が15分くらいしかなかったように思うんです。ですので、昼食時間のことはよく話題になっていますね。

今城委員： ありがとうございます。他何かございますでしょうか。

春木委員： 配付資料の職員用の「食育だより」ですが生徒にはフィードバックされないのですか。

小西委員： 昼食指導でフィードバックしています。また、生徒用にも給食だよりを作っているの、それをかみ砕いて、改善するための資料などを付けて子どもたちに返しています。

春木委員： 生徒が家に持ち帰って親に見せている子もいれば、捨ててしまう子もいるんですが、そのあたりはどうか分かりますか。

小西委員： そこまでは把握していません。中学生ですので、小学生と比べると給食だよりを発信したことが伝わっているのかなあというのが現状だと思います。私が作った内容が保護者に届くかということ100%ではないと思います。小学校に比べるとずいぶん低いのではないかなと思います。

春木委員： 保護者に届かないのは、もったいないなあと思いましたので。

将来に向けて、家庭でどういう食育をしてるかが一番肝心だと思うんです。だから、PTAに向けてぜひ発信をして欲しいと思います。せっかく色々されているのでちょっと工夫していただくと良くなるなあという気がします。

小西委員： 「お子さん、こんな感じですよ」と保護者へお伝えすることはあります。また、養護教諭からしんどいことを聞き取りした場合に、家庭へ連絡を取るのですが、栄養教諭が常に学校にいない学校は19校中18校なので、他校は希薄なんじゃないかなあと思います。

今城委員： 栄養教諭がいる学校といない学校に差ができるというのは教育上よくないと思うんです。そういう意味においては、例えば、全員給食になった時にみんな統一した給食を食べますよね。食育は栄養教諭だけがするんじゃなくて教員もしなければいけないので、それを題材にして、全校配置は厳しいにしても何校かにいる栄養教諭さんが、食のプログラムではないにしてもそういうものを作って、「こういう風に指導してください」というようなものができたら食育も進むし、献立表も配られると思うので、家庭への啓発もできるのではないかなあ。そういう風に持っていったらと思うんです。

小西委員： 全員給食がその一歩目になるんじゃないかなと思うんです。やっぱり選択式というのは、食育推進へのハードルを高くしていると感じます。私は前任が小学校で、全員給食で自校調理だったので、すごく中学校現場に来てギャップを感じているところです。どうやって伝えたらいいんだろうとか、題材にしようと思って、「給食を食べているクラスの席の横の子を見なさい」というのもどうかなあと思ったり、お箸の指導もしたいのにパンを食べてる子がいたり、また、家庭から持ってきたお弁当をスプーンやフォークで食べてる子もいる。そのような状況で給食の箸の指導をしようと思っても、「う～ん。どうしようかなあ。」と悩んでしまいます。でも、子どもたちの現状を見たら、しなきゃいけないなあと思うのですが、それが子どもたちにどこまで伝わるんだろうかというジレンマがあります。なので、全員給食をすることになったら、細かいことじゃないんですけども「全校でこういうことを行ってください」だとか「現状把握してこういうプログラムにしていきましょう」という段階ができれば、枚方全体の食に対する知識が向上し、子どもたちもより良く育つのではないかなあと思います。

中山委員： 19校中1校だけというのをお聞きしましたが、小学校の給食委員は45校すべてにいます。中学校は今まで給食がないということもあって、PTAの給食委員はいません。PTAも簡素化という部分もあって委員さんを減らしていく中、これから全員給食を目指していく中で、中学校にも給食委員を1名置いた方がいいのではないかという意見を私は出したことがあるのですが、「PTAに関して関

わりあいたくない」という声が多かったです。私は6年前に初めてPTAに関わることになったのですが、小学校給食は、委員長さん、副委員長さん、物資さんなどの役割があって、私は物資でその食材を試食して決めたりするのに関わったことがあったのですが、「鮭だけで何種類あるの」って、すごく感動しました。それを食べて選んでという中で給食の材料が決定されていくことを知って、それを中学校も関わっていかないと食育は広がっていかないと感じました。中学校給食から輪番で1人の方が試食会などにいられたとしても、19校には広がっていかれないと思うので、中学校の全員給食を目指すのであれば、中学校のPTAの準備をしないといけないと思うので、その辺の話もできればと思います。

今城委員： せっかく小学校で築いたものを継続していけるということは、今おっしゃっていただいたように必要だと思います。他にご意見はございますでしょうか。

それでは、欠席の方の意見もいただいでくださってるようですので、事務局から報告をお願いします。

事務局： それでは、欠席されている委員のご意見を、事務局からご報告申し上げます。

まず、武田委員からは、「ランチボックスは蓋を閉じれば残食を隠せるので、残食量も多くなるのかと思います。「残食となる瞬間」つまり、「残そうと蓋をした瞬間から、それは食事ではなく残食に変わる」ということになります。そのことをしっかりと子どもたちの心に問いかけることも重要だと感じます。小西委員の食育だよりは、すごく良い取り組みだと思います。生徒たちの意識が低いと思う質問についても、それを継続して問いかけることで、なぜ、それを毎回聞かれるのかということから、子どもたちへの意識付けにもなり、それも大切な食育だと思うので、ぜひ、続けていってほしいと思います。」とのご意見がありました。

また、田邊委員からは、「お弁当は子どもが希望するものを作ることができますが、栄養バランスの考えられた給食に勝るものはないと思います。しかし、食べれば栄養として満たされるものが、残食として残されるのはすごく残念です。ランチボックスは蓋をすれば残しても隠せるということを考えますと、小学校と同じ方式の方がよいのではないかと感じます。」とのご意見がありました。

報告は以上です。

案件4 学校給食の提供方式について

事務局： 枚方市の学校給食の提供方法についてご説明します。

前回の会議でもご説明しましたが、中学校給食は現在選択制で、提供方式はランチボックス方式となっております。

資料4「枚方市の学校給食の提供方法」をご覧ください。資料にもございますように、仕切りのない容器にごはん、仕切りのある容器にメインのおかずと副菜、

汁物はマグカップに入れ、それを番重にセットし、保温カートにて給食センターから各学校の配膳室へ配送しています。

小学校給食は全員給食の食缶方式です。メイン・副菜・汁物など、すべてがクラスの人数に合わせて食缶に配缶されたものが配膳室にセットされます。それを給食当番の子どもたちが取りにきて、各教室へ運び、一人ひとりの食器に子どもたちで盛り付けます。食器については、家庭での食事とほぼ同様の形式になります。ごはんはお茶碗、おかずは仕切り皿にメインと副菜を盛り付け、汁物は汁椀に盛り付けます。

次に、下の表をご覧ください。これは、給食を作り、後片付けを行うまでに必要な「時間」、「人員」等を比較したものです。上の表の中学校給食では、調理開始時間がかかなり早くなっています。これは、小学校の食缶方式と異なり、ランチボックス方式は事前にランチボックスに盛り付けを行う必要があるため、その時間を確保するために、早い時間から調理を開始している状況です。また、調理時間が長いため、盛り付ける前に再加熱することが必要となり、その部分も多く時間を要していることが分かります。小学校給食については、中学校給食の2時間後の7時から調理を開始し、調理・配缶後は、速やかに各学校へ配送しています。次に、給食の作成から片付けまでに必要な人員については、中学校のランチボックス方式が盛り付けや、食器の洗浄等を行う後片付けにかなりの人員を要しているのがわかります。それによって、人員の合計人数も、小学校の食缶方式と比べ、2倍程度となっており、それに伴って人件費もかなり高くなっていることが分かります。次に資料5「中学校給食提供方式による比較検討」をご覧ください。提供方法についてのメリットについてですが、ランチボックス方式のメリットは本市が行っているカートでの配送であれば、保温性があり、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供できる、配膳に時間を要しない、配膳時の衛生面が比較的取り扱いやすいことです。また、デメリットは、食数が多くなると盛りつけ等に時間を要す、個に応じた食事量の調整が難しい、残菜が多くなる、再加熱が必要で保温状態を維持する時間が長くなり色合いが茶系となりやすいなどが挙げられます。

次に小学校給食と同じ食缶方式についてです。メリットは、調理から子どもたちに届けられる時間が短い、個に応じた食事量の調整が可能、望ましい食習慣の形成にあった食器で提供できる、デメリットは、ランチボックスに比べると再加熱がなく適温から少し下がる、教室等での配膳となるため時間を要することなどが挙げられます。

次に、選択制と全員給食についてです。選択制のメリットは、給食以外に弁当等を希望する保護者・生徒の対応が可能、アレルギー対応などの個々のニーズに対応可能で、デメリットは、生徒全員を対象とした統一的な食に関する指導が困難となる、中学生が必要とする栄養バランスの良い給食を全員に提供できない、家庭弁当を準備することにより家庭の負担となる可能性があるなどが挙げられま

す。次に全員給食のメリットです。生徒全員を対象とした統一的な食に関する指導ができ生きた教材としての活用が可能となる、中学生が必要とする栄養バランスの良い給食を全員に提供できる、家庭の負担軽減につながるなどで、デメリットは、家庭弁当を希望する生徒及び保護者のニーズに対応できない、教職員への負担が増加する可能性などとなっています。説明は以上です。

今 城 委 員： ただいま小中学校の学校給食の提供方式などについてメリット、デメリットの話もありましたが、栄養教諭の観点から、山本委員、小西委員の方から現在の提供方式での問題・課題等をいただけたらと思います。

山 本 委 員： まず、資料4の小学校給食の盛り付けの写真ですが、実際はこのような方向で盛り付けてはいません。パン皿は横向きに牛乳は右上です。この写真ではおかずは2品しかありませんが、それは月に数度のことでほとんどの日はおかずが3品ついています。実際、教室への配膳時は体の大きさによって食べる量はかなり違います。高学年になりますと6年生の秋ごろからぐっと背が伸びる児童がととも増えて、この頃から男子女子問わずとともお代わりに来る児童が増えてきます。その際、体が小さいからといって食べる量が少ないとは限りませんが、やはり体形が大きくなるにつれて必要なエネルギー量も増えていきますので、それに合わせて食べる量をクラスの配膳では変えていくのがよく見受けられます。そういった観点で行くと、小学校は食缶方式で、低学年ですと苦手な料理・食材をいきなりどさっと盛り付けられるとなかなか食べ切るのが難しく、担任の方で少量盛り付けて、食べ切ろうという練習からスタートをしますので、食べ切れるような配膳スタイルになっていくのかと思います。

枚方市も昔からご飯茶碗があったわけではなく、ご飯茶碗がついてからお茶碗を手を持って食べる児童が増えて、給食時間も短縮されていると思います。今は特にコロナ禍でもあり前向きで全員食べていますし、何もしゃべらず黙々と食べている分、食べる時間は以前より確保されているように思っています。その分、味わってくれることも多くて、残食はコロナ禍になってから減っていると感じることもあるくらいです。それと食缶方式のデメリットですけれども、食缶方式は確かに教室への配膳がありますので時間がかかるかもしれませんが、ランチボックスも全員に配るとなれば、配膳時間にそんなに差があるのかなあとと思います。実際、小学校の配膳も15分もあれば済んでいることがほとんどです。それほど配膳に時間がかかるのか、中学校の配膳を見たことがないので分かりませんが、中学校もいろんなものを配膳するとすれば、それほど差がないのではないかなというのが正直な感想です。小学校の給食は食缶ですので確かに温度は下がります。中学校と違って熱々ではないものの保温は十分です。小学生だと熱々の方がかえって食べれなくて時間がかかりますので、食缶の方が食べやすい温度で食べているのかなあと感じています。選択制と全員給食ではもちろん、全員給食が栄養教

論の昔からの願いですので、義務教育である間は最低必要な栄養所要量は与えてあげたいという思いはすごくあります。家庭から全員が栄養を満たしたものを持ってきてくれればかまわないのですが、そうでない限りは学校としては提供してあげたいという思いはとてもあります。ですので、全員喫食は私の願いではありません。教職員の負担がデメリットとして挙げられていますが、学校給食はお腹を満たすだけのものではなく学校教育の一貫なので、それはデメリットなのかなと正直感じます。

今 城 委 員： ありがとうございます。資料の写真の食器の位置が違うなど、食育に苦心してらっしゃるなあと感じました。今、提供方法とかについては、個人の量が結構対応しやすいとか、低・中・高の学年差もありますが、そういう面でも対応しやすいとか、あと山本委員から配膳時間のこと、そんなに時間がかかるのかと、中学校の方はどうなんですか問いかけもあったんですが、それも含めて小西委員に、現状、それと課題点についてお話しいただけますでしょうか。

小 西 委 員： 配膳時間のことですが、先ほど喫食時間が確保されていないんじゃないかというところもあったとは思いますが、移動教室が増えているということを見ると、ランチボックスは配膳が早いのかなあという実感はあります。でも、中学校では食缶での提供を行ったことがないため、あくまで、こういう点でこの時間が確保できてるんじゃないかという想像で話をしているのが現状です。全員給食になればみんなが同じ方向を向くので、逆に時間も短くなるのではないかと感じます。

現在は、お弁当の子や買ってきたものを食べる子、給食を食べる子がいて、昼食の時間は、給食当番に行く人や、その他教科書を直したり、服を整えたりと生徒それぞれが様々な状況です。そのような中で、今のランチボックス方式は、自分の責任で自分のものを取るだけなので、早いのは早いと思いますが、食缶などの全員給食になれば、昼食時間についての意識も変わると思うので、現時点では比較した内容をお答えすることはできないです。また、ランチボックスのメリットだと今年になって思ったのは、コロナ禍での衛生面はすごくありがたかったと思っています。自分のものは自分で取る、これだけでも衛生面では安心だと感じたからです。子どもたちや給食を食べている教職員からしても温かいもの、冷たいものが食べられるというのはすごくありがたいと言われていました。デメリットは、資料と同様、栄養教諭としても悩んでいるところなのですが、ランチボックスの容積が決まっているため、その中に入るものを献立として考えないといけないため、その範囲の中で栄養価を考えなければいけないのはすごく難しいのが現状です。エネルギーを満たすために少し揚物が増えてしまったり、炭水化物ばかりになったりとなるため、食缶方式であれば献立のバリエーションを増やしたり、個に応じた対応ができたりするのになあと感じます。選択制と全員給食では、

山本委員がおっしゃったように、全員であれば中学校の先生方も食育についてもっと考える機会が増えるのではないかと思います。今は選択制であるため、食育というものが若干希薄になってしまうのではないかと感じることもあります。そのような現状があるからこそ、食育について教職員へのサポートをもっとしていかなければならないと思う中で、栄養教諭の立場としては、全員給食にしていた方がありがたいとは思っています。

今 城 委 員： ありがとうございます。小学校・中学校の栄養教諭の先生方に実際の現場で感じていることなどお話ししていただきました。学校給食の提供方法について何かご意見、ご質問等ございますか。

中 山 委 員： ランチボックスの給食は、どのように取りに行っているのかが気になって、見せてもらったことがあります。

クラスによって時間の差が15分位あって、チャイムが鳴ってみんなの分を一斉に取りに行く子どもがいたり、ギリギリになってクラスの分を取りに行っている子がいたりしました。お弁当の子も給食の子もみんなが揃って「いただきます」をしていたので、クラスによって昼食を食べ始める時間が全然違うと聞いたため、やはり時間という部分が気になりました。食缶になることも考えられますが、量的には多かたり少なかり調節出来たりがいいかなという声も他の保護者から聞きます。現在のランチボックスでは、男の子はご飯を2つもらったりする子がよくいる一方で、女の子はちょっと多いなあという場合もあったりするためか、それで給食嫌なんだっていう子もいるという話も聞きます。そういうところを話し合っていけたらいいなと思っています。現状ではランチボックスはいいなあとは認識はしています。

金 子 委 員： すごく根本的なことを聞いてもいいでしょうか。なぜ、最初から選択制だったのかという疑問があります。最初から全員給食で始めてしまっていたら何もなかったのかなあと思います。小学校の6年生を対象にした中学校の給食試食会が毎年あり、子どもには実施していますが、保護者に対してはそのような取り組みがされていないと思います。保護者が何も知らない状態で中学校に入学しているので、子どもたちからおいしくなかったって言われたら、弁当を作るしかないのかなという意見が一番多かったです。

現在コロナ禍で、PTAの全体会ができていないだけに、どのようなことが知りたいのかが把握できれば思って、12月に入ってから小学校の給食アンケートを取りました。その中で、一番多かったのが「なぜ選択制なのか」という部分なんです。選択制じゃなかったらもめることも議論する必要も何もなかったのではという意見です。確かにそうだなと思いました。できれば、有無を言わず全員でスタートしてしまった方が早かったのではないかと私一人としては思っています。

す。でも、今、この場に参加している私たちは様々な資料をいただくことができますが、保護者はこのような資料はもらえないのかという意見も挙がっていました。保護者が知るには、ホームページを見たら分かるのか、どこまでの情報がみんなに広まっているのか、枚方市はそのような周知についてどのように努力しているのか分からないという意見も多かったです。小学校には給食委員会がありますが、私たちがお知らせしたいものがあれば通達することは可能なんでしょうか。枚方市はせっかくパンフレットも配ってるのに、給食委員会などの場に、何も情報となるものが周知されなければみんな知りようがないと思います。「今回はこれを載せましたよ」というせめて通達でもあれば、見るチャンスがあるのかなあとと思います。

タブレットを毎日持って行っていますが、「重たいのなら家に置いてけば」って思ってしまうんです。1年生の子にあれだけ重たいもの背負わせて、ランドセルも重たい、教科書も重たい、タブレットも重たい、「何のためにタブレットが使われているんやろ」と思います。資料や手紙が全く親に届いていない。もう届いた時にはクツチャクチャの状態、カバンの中で押し込まれて出てきた「保健だより」とか「給食だより」を見て、「なるほど」って思う保護者がきっと多いと思います。中学になればなおさら、手紙を見せなくなります。だからこそ、確実に保護者に伝わる方法で、「給食がいいもんや」っていうのをわかりやすく周知してほしいというのが保護者の意見です。「それやったら、わざわざお弁当作らずにこれにしとき」っていうようになると思います。もっとシンプルに考えてほしいな。

12月にアンケートをいっぱい取りましたけど、「早く給食にして」という意見が一番多かったです。それが率直な意見なんだと思います。後日、委員長の方から資料を求めることがあると思います。どこまで開示して可能なのかわからないですけども、できれば資料いっぱいいただきたいです。一斉にお知らせ出来たらなあと思っていますので。

今 城 委 員： ありがとうございます。懇話会の第1回目のアンケートの項目で、小学校の時の給食の評価がすごく高くて、中学になると生徒の意見に左右されるという結果だったと私は記憶しているのですが、ただ、中学校給食がある市町村では、給食があるのは当たり前なので、何の抵抗もなく小学校の給食のイメージのまま上がっていくんじゃないかなと思います。最初から選択方式でなく始めたらよかったんじゃないかと私も思いました。

他に何かございますでしょうか。

中 山 委 員： 中学校のある会長さんのお話なんですけれども、自分は他市で育ってきて、昔から中学校給食があったが、枚方市に来て中学校給食が選択制になった年にお子さんが中学生になって、「なんで選択制なんだろう」と言っておられました。私

が出ているこの会議もどういうものなのか。それによってPTAからの意見の出し方や、私たちの考えも変わるから、よく聞いてきてほしいとされています。

その中学校から出た意見が、「中学校給食が完全喫食になります」と言うのと在校生は「嫌だ」という声や、お弁当がいいという意見が挙がるため、何も聞かず、「選択制ではなくなります」って通達を出したらどうですかと言われたこともありました。幼稚園の方は小学校に入る時に何も言わなくても自然に給食になりますよね。今の施設のない状況では、選択制にせざるを得ないことはわかっているのですが、全員給食ができる状況になれば、保護者の意見は聞かず実施してはどうかというのがPTAからよく聞く声です。親の意見と子どもの意見を聞きすぎると何も進まないじゃないのではということ、一番言われる意見です。

今 城 委 員： 私の考えなんですけれども、一番は子どもの健康だと思うんですね。それを第一優先で考えて進んで行けたらなあと思っております。この件に関して事務局から何かありますか。

事 務 局： 平成28年に今の中学校給食がスタートしましたが、それまでに様々な論議がなされた中で今の方式に決定され、第一学校給食共同調理場も整備されました。そこから5年間の月日が経過し様々な課題も出てきている中で、現在の中学校給食をどのように進めていくのかが、生徒たちにとって相応しいのか、そういったご意見もいただきながら、今後、市として方針を立てて進めていきたいと考えています。本来であれば「ゴールを示してそれでよかったらご意見ください」というものだと思うのですが、まず子どもたちにとって相応しいのはどういうものなのか、持続可能な給食の提供ってどういうことなのかというのを、我々が方針を立てるために、様々な分野から率直なご意見をいただくことがまず大切だと考えています。

保護者の皆さんはこういう風に考えていらっしゃるのか、お二人の先生方からは食育や栄養などの専門的な分野のご意見いただくことができますし、学校現場の実態を含めたご意見をお聞きして、我々も方向性を取りまとめていければと思っております。この懇話会の意見をかなり反映させていく方針であります。そういう意味ではそれぞれのお立場から幅広くいただけたらありがたいと思っております。

今 城 委 員： ありがとうございます。他なにかございませんでしょうか。

事 務 局： 欠席されている委員のご意見を預かっておりますので、ご報告させていただきます。

まず、武田委員からは、「食缶は盛り付け量の調整が可能です。仮に減らしすぎがあったとしても、見れば分かるので、その場で指導することもできると思いま

す。また、朝早くから、給食の提供に多くの方々が関わっていることを知らせるのも子ども達にとって大切な学びになると思います。」とのご意見がありました。

次に、田中委員からは、「まず、資料5の①で、ランチボックスのメリットは1つしか上がっていませんが、ランチボックスは生徒たちが取りに行くだけでですので、配膳時間が少なくて済みますし、食缶と違って、準備に多くの人の手を介することがないので、衛生面を考えても安心な面もメリットかと思います。次に、資料5の②の選択制のデメリットですが、「全員を対象とした統一的な食に関する指導が困難となる」という部分ですが、みんなが給食を食べていないから、食育指導が難しいというのは、選択制のデメリットに位置付けるのはおかしいと感じます。全員に配布されている献立表もあり、それを活用することも可能ですし、また、子どもたちの実体験の有無に関わらず、食のことを教えることはできるのではないのでしょうか。次に、全員給食の部分で、デメリットに「教職員の負担が増加する」とありますが、選択制であっても全員給食であっても、給食があれば、教職員の昼休憩がなくなるという負担があることでは同じだと思います。選択制の場合は、誰が頼んでいるのか頼んでいないのかを事前に把握しておく必要がありますが、全員給食でランチボックスの場合は、振り分けをしなくてもよいので、その点での負担は軽くなります。また、食缶で全員給食の場合、お皿に盛り付けるのは子どもたちですが、生徒への指導が必要であり教員の負担が増えます。選択制で、食缶方式の場合はランチボックス以上に同様の負担はかかるかもしれません。」とのご意見がありました。」

また、田邊委員からは、「食缶は、当番が盛り付けるのに時間がかかりますが、学年が上がると、子どもたちも慣れてきて、思うより時間がかからないかもしれません。ランチボックスは、配膳室まで取りに行くという時間が必要ですが、給食の開始時間が同じなので、配膳室が込み合い時間を要するため、もし、全員給食になった場合を考えると、食缶より時間がかかる可能性もあります。食缶とランチボックス、どちらの方が時間がかかるのか。時間については、学校の状況も併せて考える必要はあるかと思います。」とのご意見がありました。

報告は以上です。

今 城 委 員： ありがとうございます。

他、ございませんか。

今、委員の皆様からそれぞれのご意見をいただきましたが、春木先生には、学校給食における食育という部分も併せて、給食の提供方法についてご意見をちょうだいできればと思うのですが、いかがでしょうか。

春 木 委 員： 望ましい学校給食を実施するためには、やはり学校現場や保護者の方たちのご意見が大切になってくるかと思います。そのあたり、学校現場ではどうなのかをお聞かせいただけますか。

小西委員： もし、ランチボックスで全員給食になった場合、資料のメリットデメリットでもあったように、給食の量の面で個としての対応が難しいと思います。また、栄養教諭という個人の立場でお話させていただくと、ランチボックスという決められた大きさの容器で提供可能な献立を作成するのは、レパートリーも限られてくるため、子どもたちが給食にあきてくるのではないかという心配もあります。教員の負担面は食缶で全員給食に比べると少ないのではないかと考えますし、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという面を考えると、その部分はランチボックスの利点だと感じます。しかし、子どもたちにとっては、食缶の全員給食というのは小学校からの継続なので、スムーズに行けるのではないかと考えますし、個の対応もでき、献立のレパートリーも幅ができるのではないかと感じます。また、食育の面では、ランチボックスであっても食缶であっても、全員が給食を食べるとするのは、子どもたちの体験活動ということ考えると大きな意味があり、食べた上で学べることは多いと思いますし、私としては全員給食を願います。学校教育として考えると昼食ではなくて給食というのが本来の姿であり、また、教育活動の一環でもあり、教材の一つでもあるといえるのかと思います。みんなで食べるという意義も考えると、全員に均等に与えられるべきものであり、全員給食が給食のあり方ではないかと思っています。

今城委員： 小学校の給食は特別活動に位置付けられているかと思いますが、中学校はどのような位置づけになっているのですか。

小西委員： 中学校も特別活動です。

今城委員： そうなんですね。

小西委員： はい。特別活動であることを考えると、中学校給食は小学校に比べたら希薄であるかと感じます。

今城委員： やはり、気になってるのは成長期の中学生の栄養という部分なのですが、家庭での食は見えるようで見えないもので、格差もあると思います。進学する子どももいれば貧困な家庭もある中で、このような大事な時期だからこそ、食育ということが言われるようになったと思うのですが、それを充実しようと思ったら、やはり学校教育で進めていくのは一番だと思いますし、全員給食ではなくても食育はできるという意見もありますが、現場の先生方としては全員一斉に指導できるようなきちんとしたカリキュラムが設定されないと中々進みにくいという点もあるかと思っています。ランチボックスにしても食缶にしても、全員給食にすることが食育が進みやすい、生徒の栄養面の充実も果たせられると思います。では、ラン

チボックスか食缶かというところ、先程 PTA の委員の方からもご意見があったように、量が調整できる食缶が理想ではないかと私は考えます。

春木委員： 中学校は現在ランチボックス形式であるため、食缶となると、先生方が昼食の時間を見直す必要はでてくるかとは思いますが。

小西委員： 全員給食を実施するとなれば、いずれの方式においても学校は検討しなければならないと思います。しかし、全員給食の実施が決定したとなれば、給食の時間を確保してくださいということ、我々も言うことができます。

事務局： 望ましい提供方式についてご意見をいただいたうえで、その過程として、例えば、その方式で給食提供するのであれば、現場としてどのような課題があるのかを次の段階で様々なご意見をいただきたいと考えています。

春木委員： 今の日本は、手作りだけではなく様々な食選択ができる状況にあり、家庭の食事でも千差万別な食環境にあることを考えると、将来、非常に不安な状況にあると思います。また、家庭環境においても、子どもが小学校を卒業したら働きに出るお母さんが一層増えてくる中で、中々忙しく調理時間が取れない方も多く、簡単に調理できる食品への選択も増加している傾向にあり、更に中学校に入ると、昼食に困る生徒も中にはいることも考えた場合、中学校給食で全員給食というのは望ましいのではないかと思います。現場の学校の先生の課題等もお聞かせいただきながら、是非達成していけたらと考えています。

今城委員： ありがとうございます。

では、案件 5 「中学校給食の望ましい方向性について」事務局から説明をお願いします。

案件 5 中学校給食の望ましい方向性について

事務局： 本日も委員の皆様から様々なご意見をいただきました。専門的な分野からのご意見、学校現場の状況も踏まえたご意見、そして生徒・児童を持つ保護者の視点からのご意見など、多くのご意見があった中で、「枚方市の中学校給食に望ましい方向性について」改めて、皆様のご意見をいただき、次回の検討につなげてまいりたいと考えておりますのでよろしく申し上げます。

今城委員： ありがとうございます。

今、事務局より、「枚方市の中学校給食に望ましい方向性について」、委員の皆様

様それぞれからご意見をとのお話でした。

では、順番にお聞かせいただきたいと思います。

金子委員： 私自身は小中と全員給食が当たり前の環境で過ごしていました。当然、中学校の給食も皆で準備して、給食を食べて片付けて、昼休憩に入るという流れだったので、小学校と同じスタイルで中学校でも実施できないのかなあと考えています。できれば、中学校も小学校と同様に実施してほしいというのが希望です。

中山委員： 何が望ましいのかは、保護者も個々違うとは思いますが、子どもたちの食育のことや栄養面を考えた時に、生徒皆が統一されるのがよいと思います。希望は時間がかかったとしても全員給食が叶えばと思っています。

山本委員： 栄養所要量を満たすという意味では、全員給食がよいと思います。

小西委員： 義務教育の子どもたちを責任もって預かって育てていくことを考えると、給食を提供する立場からしても全員給食を望みたいと思います。

春木委員： 子どもたち全員に提供することがよいと考えます。

事務局： 本日、欠席の委員のご意見を、ご報告いたします。

まず、武田委員からは、「小学校の給食は、配膳には時間がかかるが学習にもなると思います。また、給食は、普段、しゃべらない子も、同じものを味わうことで共通の話題が生まれ、コミュニケーションを図ることを可能にするものだと感じます。そう考えると、本来は、全員給食がよいのかもしれませんが。ただ、食缶方式での配膳等の時間を考えた場合、今の中学校の日課で実施するのは課題がとて多いと思います。」とのご意見がありました。

また、田中委員からは、「今後の給食のあり方を考えた時、中学校給食を全員給食にするのか、選択制なのか、それとも以前のように給食自体をなくして全員お弁当にするのか、その3つの選択しかない中で、枚方市としてどうしたいのか、ただそれだけだと思います。前回、事務局から説明していただいた内容や、今回の資料を見ても、給食が子どもたちにとって良いことは充分わかりますし、否定するものは何もありません。その中で、枚方市として、中学校給食の方向性が決まれば、その方策を、それぞれの立場でお話しすることができますし、そのために、どういうことから始めないといけないか、何が必要かの提案もできるのではないかと思います。現時点では、選択制のランチボックス方式を継続する方がよいのではと考えます。」というご意見がありました。

次に、田邊委員からは、「給食より弁当がよいという、子どもの意見を尊重する家庭は多いと思います。しかし、子どもの希望する食事は作れますが、栄養面な

どを併せ持って考えた場合、給食に勝るものはないと思います。また、給食費の援助を受けている方、援助を受けたくても給食を選択することで援助を受けていることが分かるのではないかという思いから援助を受けない方、そのようなことを考えなくても済むという平等性の視点からも、小学校と同じく私は、全員給食がよいのではないかと思います。」とのご意見がありました。

報告は以上です。

今 城 委 員： ありがとうございます。

枚方市の学校給食の望ましい方向性について、今、皆様のご意見等を伺いました。

出席された委員の中では、全員給食は学校現場における課題等は多々ありますが、全員給食で、小学校同様の食缶方式がよいのではないかという意見が多く見られました。また、欠席された委員の皆様のご意見で、全員給食は望ましいのですが学校現場における課題等が多くあることが分かりました。

私は中学生の心身の育成、栄養面の確保、学校が担わなくてはいけない食育の観点を考えると、学校給食が果たす役割は大変重要ではないかと思っており、全員給食制に移行することが望ましいのではないかと考えます。SDG s ではないですが、持続可能な食育推進、成長期の中学生を誰一人残さずに健全に育成していかなくてはならない、これは教育の根本であると思います。この内容を実施していくにあたりまして、会議終了後、次回の案件としてどのように進めていくかを事務局にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

では、「案件 6. その他」について、事務局から何かございますでしょうか。

案件 6 その他

事 務 局： 長時間に渡り、貴重なご意見をいただきありがとうございました。

第 1 回目の会議でお伝えしましたとおり、この懇話会は、月 1 回程度の開催を行い、いただいたご意見等を集約したうえで、課題等についてもご意見をいただきながら中学校給食のあり方をとりまとめ、市としての方針として策定することとしています。

次回の第 3 回目の懇話会につきましては、欠席の委員もおられますので、この場で決めるのが難しいかもしれません。また、改めて、日程調整表をお送りするなどして決めさせていただきたいと思っております。なお、本日の案件について、会議終了後にお気づきの点等がございましたら、年末年始を挟みますので、恐れ入りますが令和 4 年 1 月 4 日（火）から 1 月 7 日（金）までにおいしい給食課へご連絡いただきますようお願いいたします。加えて、後日、会議録作成にあたり、それぞれ内容確

認をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

今城委員： 本日は、様々な方々から貴重なご意見をいただきありがとうございます。
お疲れ様でした。ありがとうございました。